



音楽会・・・夏の終わりのハーモニー

9月9日(火)、伊那文化会館の大ホールを会場に音楽会が開催され、クラス単位の合唱コンクールが行われました。加えて、3年音楽選択者、音楽部、器楽部、吹奏楽部も合唱・演奏を発表し、全員が参加しながら音楽を堪能する1日になりました。

歴史 本校の音楽会は、終戦翌年の1946年9月22日、ソプラノ歌手 関 種子さんを招いての音楽会が始まりです。その翌年9月15日には校内音楽会を開催しています。現在の合唱の形となったのは、1949年11月12日に生徒会が主催した「全校音楽コンクール」からです。近年では、新型コロナの影響により令和2年から4年まで3年間実施できなかった期間を挟み、今の3年生が1年生の時から再開しています。1949年を最初とすると、76年前から続く学校行事であり、平和な時代の学校教育活動として定着しています。

練習 早いクラスは夏休みに登校してパート練習をしていました。当日前5日間は一課を変え、1時間目開始前に練習時間を確保し、仕上げに向けて追い込みを行



当日休憩時間の練習



学校中庭での練習

いました。朝の一時、校舎中に歌声が響くのは心地が良かったです。あるクラスは、当日の休憩時間に最後の合わせをするなど意気込んでいました。

合唱 1年生は手探りの中で本番を迎えたと思いますが、まとまりのある合唱ができました。2年生は経験を生かし、積んできた練習の成果を発表することができました。3年生はクラスの色を出しながら迫力ある仕上がりを披露しました。全15クラスが審査により点数化され、甲乙つけることの難しさを実感しましたが、どのクラスの歌声も努力の様子をうかがうことができ、それぞれにぐっと伝わってくるものがありました。また、多くの保護者の方にもご参観いただくことができました。

HEIWAの鐘 職員合唱では沖縄出身のシンガーソングライター仲里幸広さんが作詞・作曲した『HEIWAの鐘』を合唱しました。武器によらない平和を願うこの曲は、2000年に日本で開催された九州・沖縄サミットの会場でBGMとして流され、先進国の首脳らに発信されたものです。練習不足は否めませんでしたが、冒頭で3学年担任の先生による寸劇も含め生徒たちに好評だったようです。



最優秀賞の3年生



特別賞の2年生



職員